

令和2年度第4回秋田県環境影響評価審査会議事録

1. 審 査 日

令和2年10月21日（水）から11月27日（金）まで（書面審議）

2. 審 議 委 員

及川洋委員（会長）、菊地英治委員、曾根千晴委員、高根昭一委員、
高橋一郎委員、土田鐘子委員、成田憲二委員、増田周平委員

3. 議 事

諮問第7号

（仮称）秋田県由利本荘市沖洋上ウィンドファーム事業 計画段階環境配慮書について

4. 議 事 の 概 要

知事より諮問された案件について書面により審議し、その結果を知事に答申することとした。

【委員の主な意見】

- 事前の動物相の把握は、環境省の分布調査等が多く、しかも全体的に古い文献のように思う。現地調査を第一に考え、より事業区域の生物の実態を正確に把握するよう努力くださることを望む。
- 陸上で繁殖する鳥類であっても、例えば、ミサゴのように海上で採餌を行う種類があり、また、冬鳥であってもオジロワシや、オオワシなどは海産魚類を食するため、洋上に出て、採餌する可能性もある。各種鳥類の行動を予測し、具体的な生態を把握くださるようお願いしたい。また、風や雨の激しいときや霧が発生するなどの悪天候による行動の変化も予測して欲しい。荒天時は、衰弱した状況で内陸部で観察されることがあるので、バードストライクに遭遇する個体が出るかもしれない。同様に猛禽類などに襲われた時には渡りルートの変化もありうるので、あらゆる場合を想定して調査して欲しい。
- 工事中及び施設稼働中、さらには将来的に、海域内での振動や音響、影、水質汚濁、砂の移動等により海棲生物への影響が生じる可能性はあると思う。
- 秋田港が風力発電設備の組立てなどに利用されるのならば、環境影響評価を行う地点として加える可能性が生じると思われる。